(3) 国際交流センター活動報告 (2003.4～2004.3)

――地域に根ざした多彩な国際教育活動・国際交流センター第１年目の試み――

本学の国際活動のユニークさは、地域の国際交流との連携と協同を旗幟鮮明にして行っていることにある。

１．地域に根ざした国際活動

国際交流センターの活動は、2003年6月のセンター開設記念パーティの実施から始まった。集まった130名あまりの顔ぶれは、学内の日本人・外国人の学生教職員とともに、穂高から岡谷にまでおよぶ地域の人々を含んでいた。本学の特色ある姿勢が感じ取られて、地域から共感を得たのであった。センター開設にあたって掲げた目標は

(1) 地域国際化の「よろず相談所」になる

(2) 国際文化を求める人々の「集いの場」となる

(3) 国際化する地域を支える人の「育ての場」を提供する

であった。

その後のセンターの活動は多岐に及んだが、いずれも国際教育的プログラムとして、大学から地域へ、地域から大学へという両面のよき影響の波及を意識したものだった。

○大学から地域へ―オリバー先生と歌う英語の歌 Summer Feeling は地域の人の参加はなく学生」60名の参加で行われたが、姿勢は「地域歓迎」だった。これに対して、地域の学校「丸の内ビジネススクール」との共催で行った留学生による講演会（チョグ・ジャルカル君「草原は私のふるさと」、参加者80名）は地域の個人参加者をも集めて喜ばれた。大学内で教職員中心に始めた英語会話の会 Brown Bag は、地域の希望者を加えながら成長してきた。

○地域から大学へ―ブリガムヤング大学からの研修生ジェンセン幸子さん、中国廊坊市職員李、劉両氏、長野県国際交流員マルガレッタさんによる学生・教職員への講演は、いずれも地域が進めてきた交流の成果を大学内に取り入れた性格のものである。

新年度に持ち越す課題としては、松本市等の海外姉妹都市近辺にある大学との提携を目標としながら、それぞれの市との交流に大学として重点的積極的に関わることである（例：ソルトレーク市での海外生活スクール活動に対する支援）。

２．留学生との交流推進

国際交流センターの活動のもう一つの柱は、留学生との交流の推進である。本来行っていなければならないステップ・バイ・ステップを着実に実践したという点にこの一年の意義があったといえる。全学の留学生歓迎会、留学生に対するオリエンテーションの実施、授業料滞納の一掃、留学生のアウトキャンパスとしての乗鞍スキーツアーの実施など、留学生に対する管理・教育両面の関係を著しく改善したといえる。しかし、まだまだやるべきことは多い。特に留学生に対する個別指導の改善、困難であるが留学生生活への支援は、２年目の大きな課題として残されている。

３．海外大学との提携

第１年目にほとんど手つかずに残ったのは海外大学との提携である。オーストラリアのニューカッスル大学への訪問（住吉教授）のほかは、SAARS の発生等の事情もあり、提携工作そのものができなかった。すべては次年度への課題として残されている。

6月18日（水）：国際交流センター開設記念　留学生歓迎パーティー
7月12日（土）：summer feeling music　by オリバー・カーター
7月17日（木）：「研修留学生との交流研修会」
市民タイムスへの研修生　ジェンセン・幸子（ブリガム・ヤング大学）
8月15～22日　：ニューカッスル大学短期英語研修コース（湘北短期大学主催）への参加　住吉広行
9月　：「日系ブラジル人の現状について」長野県国際交流員　清水マルガレッタ
10月29日（水）：「廊坊市に関する研修会」
松本市姉妹都市からの派遣の研修生　李強　劉文民
11月～　：「Brown Bag」　マーク・ブライアリーによる英語の集い
11月19日（水）：「姉妹都市事業の研究会（松本商工会議所）」
松本市・ソルトレークシティー姉妹都市提携委員　小澤いづみ
11月26日（水）：「草原は私のふるさと　－私が日本に留学した目的－」
松商短大部一年　チョグ・ジャルカル（丸の内ビジネス専門学校共催）
11月28日（金）：松本東ロータリースピーチコンテスト参加　　胡海鳴
松本市の研修生による講演会開催
11月29日（土）：湘北短大　英語スピーチコンテスト参加
神奈川新聞社賞：短大部一年　猿舘愛美
1月18日（日）：留学生地域交流会「劉さんによる中国料理教室」
1月30日（金）：いけばなインターナショナルへの参加
2月24～26日　：留学生スキーツアー乗鞍高原
2月28日（土）：「日本料理づくり」新村地域との留学生交流会